## STABLE AQUEOUS SOLUTION OF ALPHA-TOCOPHEROL PHOSPHORIC ESTER

Publication number: JP59044375 (A)

Also published as:
Publication date: 1984-03-12

Inventor(s): OGATA KAZUMI; MATSUURA TAKAKO

Applicant(s): SENJU PHARMA CO

Classification:
- international: A61K31/665; A61K9/08; C07D311/72; C07F9/655; A61K31/665; A61K9/08; C07D311/00; C07F9/00; (IPC1-7) C07D311/72

- European:
Application number: JP19820155637 19820906

Priority number(s): JP19820155637 19820906

#### Abstract of JP 59044375 (A)

PURPOSE:The titled aqueous solution improving clouding, useful for improving peripheral circulation, etc., obtained by adding a nonionic surface active agent to a solution having a specific pH, wherein an alpha-tocopherol phosphoric ester is dissolved as a pharmaceutically acceptable water-soluble salt. CONSTITUTION:A stable aqueous solution of alpha-tocopherol phosphoric ester, wherein an alpha-tocopherol phosphoric ester is dissolved as a pharmaceutically acceptable water-soluble salt (e.g., alkali metal salt), having 3-9pH, preferably 5-8pH, containing a nonionic surface active agent. The nonionic surface active agent has preferably 11-20HLB. The amount of it used is >=15(W/W), preferably >=100(W/W) based on alpha-tocopherol phosphoric ester.; Defects such as clouding, etc. with respect to pharmaceutical manufacturing, obstacles in the preparation of an aqueous solution of hydrophilic alpha-tocopherol, caused by the adjustment of concentration or pH, can be improved.

Data supplied from the esp@cenet database — Worldwide

(B) 日本国特許庁 (JP)

①特許出願公開

母公開特許公報(A)

昭59-44375

(1) Int. Cl.<sup>3</sup>
C 07 D 311/72

識別記号

庁内整理番号 7169-4C **砂公開** 昭和59年(1984)3月12日

発明の数 1 審査請求 未請求

(全 5 頁)

⊗αートコフェロールリン酸エステルの安定な
水溶液

顧 昭57-155637

**②特** ②出

顧 昭57(1982)9月6日

砂発 明 者 緒方一美

豊中市東豊中町5丁目2番139

-402

珍発 明 者 松浦多佳子

京都市西京区桂南巽町117

①出 願 人 千寿製薬株式会社

大阪市東区平野町3丁目6番地

Ø 1

砂代 理 人 弁理士 竹内卓

**卯** 和 :

#### 1. 発明の名所

αートコフエロールリン酸エステルの安定な水 治癒

#### 2. 特許請求の福川

- 1 の・・トコフェロ・ルリン他エステルが襲挙的 に許容される本語書語として紹辨し、その 明 が ほないしり、好ましくはちないしま、であり、か つ非ポン性界面話性類が辞加されていることを特 散とするの・・トコフェロールリン酸エステルの安 定な水イ政。
- 2 繋学的に許容される水溶塩がアルカリ金属塩である特許請求の範囲第1項配数の水溶液。
- 3 非イオン性界面活性層が11ないし20のH LSを育する特許請求の抵潤死1項記載の水だ故。
- 4 ペートコフェロールリン酸エステルに対する 非イオン性界前請性剤の聚が15(W/W)無り 上、好ましくは36(ペ/W)等以上である付許 請求の領晰毎(項記載の水産説。
- 5 符銀化剤として精質もしくはアルコール類の

少くとも一つが加えられた特許請求の範囲第)項 記載の水俗級。

- 6 ペートンフェロールリン競エステルのアルカリ金額度を氷に高解し、その 同日を3ないし9に 親位すると純に弾イオン独界面簡性剤を凝加して 得られる特許減求の範囲第1項配核の水舶数。
- 3. 発明の詳細な説明

本発明はベートコフエロ・ルリン的エステルの 安定な水電波に関する。

ボートコフェロールは実育部行を良くし、手足のしびれや冷え、ももつけ、更年間の母などの治療に効果を示す。また、近年自内原などにも効果が期待されつきある。。

ホートコフェロールは小麦胚芽などに多く含まれる動状物で、そのアセテート、ニコチネート、 サクシネートのカルシウム異などはすべて視筋性で水産健康はない。

本統明者らはペートコフェロールの水溶液を得るためにそのリン酸エステルに存削した。ペート コフェロールリン酸エステルは複雑の形態では水

時間略 59- 44375(2)

(名解し難いが、そのジア・リウム塩は水に密発する。しかしながら、それは塩化ナトリウムのような塩質により水溶液から塩低されるばかりでなく、0.5(W/V)%の温度に水に溶解すると明約1.0.5を示しは射剤や点眼剤としては好ましくない。また、生理的内にに近づけるために、その水溶液に飽を加えて同じ7付近にし、室臓に放棄するかまたは凍精後溢解させると純性が増加し、かつ自腐化するので製剤上好ましくない。

本発明者らはこれらの欠点を克服すべく研究を 飛ねた結果、本発明を完成するに至った。

本発明は、ペートコフェロールリン酸エステルが要学的に許容される水酸性塩として溶解し、その 財 がまないしり、好ましくはまないしまであり、かつ那イオン性界面高性剤が添加されていることを特徴とするペートコフェロールリン酸エステルの安定な水溶液である。

パートコフェロールリン酸エステルの選挙的に 非容される水倍性限としてはペートコフェロール リン酸エステルと襲挙的に無害な騒派とから形成 される水路性環が用いられ、その例としてはアルカリ会属環、好ましくは、ナトリウム度やカリウム型が挙げられる。 南部により、他のアルカリ会 顕版、たとえば、リチウム塩を用いてもよい。

上記の水道性質は臨の形で単顔されたものを水 に加えて水溶液としてもよいが、パートコフェロ ニルリン酸エステルと塩基とを水中で液電させて 得られる塩の水溶液をそのまり用いてもよい。

水溶液中における nートコフェロールリン酸エステルの好ましい製設は 0.01~5(W/V)%である。

水溶液のpH は3ないしり、好ましくは5ないし8の範囲に遊ばれる。そのためには、必要に応じて、塩酸、酢酸のようなか、水酔化ナトリウム、炭酸ナトリウムのようなアルカリを用いてpH を調整する。ペートコフェロールリン酸エステルを水中で母話と反応させて水部健園の水溶液を得る場合、塩話として、たとえば、水酸化ナトリウムを用いて上部の範囲内の所領のpH に調整すれば、そのpH を有するペートコフェロールリン酸エス

テルのナトリウム塩水溶放が初られる。また、 αートコフニロールリン酸エステルのジナトリウム 塩を水に溶解すると、前部のように比較的高いpil をもつ水溶液が得られるので、これに酸、たとえば顕微を加えて新鉛のpil に調整してもよい。

非イオン性界面活性別はの・トコフェロールリン酸エステルに対して15(W/W)の以上200(W/W)の、好ましくは30(W/W)の以上200(W/W)の場合しては30(W/W)の場合は 上100(W/W)が用いるのがよい、界面活性 剤の使用量が少な過ぎると安定効果が減少する傾 向がある。

ペートコフェロールリン酸エステルはパートコ フェロールより誘導できる。その合成の思様を次 に示す。

〔 ベートコフエロールリン酸エステルの合成〕

オキシ三塩化リン(POCA) 6.12ッをベンゼン50㎡に高かして冷却して殺き、これにDLーペートコフェロール8.6 9 起よびピリジン9.5 ?をベンゼン50㎡に高かした融資を選作下に満下させた後、遅乱にもどして3時間がきまぜる。つぎに、これを冷却下で水1㎡を加え、30分間がきまぜた後、折出した鬼般ピリジンをか崩浚、ペンゼンを留去し、残産補状物を確認エチルで開出し、1%の傷骸および水で洗い、乾燥減酸サトリウムで乾燥後、酢酸エチルを確まする。残な前

訪問昭59- 44375 (3)

敬姓方説)・2 によるパートコフェロールリン酸 エステルナトリウムの水溶液に非イオン界前活性 耐を加えて御動1 0 時間後に通解させた場合にお ける、その外機変化を要1・2・3 に示す。

#### **以験切方例!**

ペートコフェロー・ルリン酸エステルニナトリウム

• •	0.5 ( 9.77 )%
7=1 n	5.0 #
非イオン界版活性剤	0.1 *
作酸(pH 網盤剂)	適量
胰菌精製水 全鼠	1 10 0 =
	all 1

状物を1~2%の水酸化ナトリウムに耐かし、不 前物があればセライトを用いて超老し、評較に塩 化ナトリウムを加えて新出する自色化和物を非故 し、これをアセトンでよく使つて脱水させ、乾燥 後、水に耐かしてが超し、水液に塩酸を加えて 酸エチルで抽出し、水で化つて、乾燥温量デンリ ウムで乾燥後、酢酸エチルを留去させると酸質色 の削状物(放戦すると精品)約リリを得る。これ を打削エーテルまたはローへキサンから再精品させる。

【ガートコフェロールリン酸エステルニナトリワ (Rio 製造)

上記のペートコフェコールリン的エステル5 9 を水 1 でにナスペンドして設金、Cれに 1 0 %水 物化ナトリウム酸を切えて筋かし pl が 1 4 5 に なるように調整し、Cれに塩化ナトリウム的 c 0 を加えて折出する自心沈砂板をが取し、アモトン次いでエーテルで十分洗つて乾燥させる。 杉木5 9 を得る。

本発明の効果は顕著である。その例として、試

変1. 試験処方例1における外閣

非イオン界面活性剤	HLB	型結局解後の外側
P()印はクチルフエニルエー・テル	1 1.5	-
POEM/ニルフェニルエーテル	2 0.0	-
POE9iラウリルエーテル	14.5	-
POE(40)モノステアレート	1 7.5	
POE(4))ソルビツトテトラオレート	1 2.5	
POE(GO) 硬化ヒマシ油	1 1.0	_
POE カフルピタンモノオレート	1 5.0	
fit fit Lit	į	نټ

試験処方例 2.

α--トコフエロールリン的エステルニナトリウム

		各政党( V	V/V )9	ó
マンニトール		5	4	
POE2Gソルビタンモノオリ	各种技			
酢酸(pli調證剂)		36 J.		
転貨精製水	全 页	100	•	

数2. 内7における試験処方例2の外型

αートコフェミレールリン簡エステル	POEzdin	ビタンゼ	/ポレー	FENG	į(ų,⁄i	Y:3
! ::::::::::::::::::::::::::::::::::::	0 0.01	003	0.05	a,	Œ2	23
0.1	# +	•••			-	-
0.3	+++  ++	++	+			<u>-</u>
0.6	<del>                                    </del>	111	+	+		
1.0	! *** ***	Ħ÷	##	++	+	_

数3. αートコフェロールリン的エステルニナト
リカム0.6 (w/v) %におけるpH 強び
ルPOEなりルピタンモノオレートの影響

	POE	35/ルビタ	ンモノオレー	- 医腹膜 ()	w/v 196
pH	U	0.05	0.1	0, 2	0.3
. 10	<b>}</b> -	-		-	-
9	++-	·-	-	_	-
. 8	+++	++-	-	-	-
7	 : +++	. ++	-		

#### 時間報59- 44375 (4)

3, ()	E	ü	л:	ŋ	ż	+	シ	J.	チ	レ	×	ره	晀	.C.(	) 抖	Ø	故	7
at fit Jin	1 モ	ماذ	۲'n	5-	东	ᢐ												

外級判定の冊、冊、平の順に衝皮収合は軽度となり、一は透明を示す。

表1では各種非イオン界語語性剤の1(w/v) 多の添加で自動的主に効果を示し、裏2は pH 7 に むける aートコフェロールリン酸エステルニナ トリウムの制度とPOE Mソルビタンモノステア レートの数度との関係を示したもので aートコフ エロールリン酸エステルニナトリウム(無)に対し で非イオン界語語性剤が約30(w/w)の以上 で効果が顕著であつた。

また、表3 は pH による変化と界面活性 前の関係 を果したものである。すなわち、 pH : 0 で は PC 面活性制無添加でも透明性を維持出来るが、 注射 引、点眼前などでは刺激の面を考えると好ましく ない。また、 マートコフエロールリン酸エステル 同一端度でpH 9、8: 7 を比較すると pH が延く なるほど界面活性剤が多く必要であることがわか った。

#### 以上の配波を無菌が過し、無菌的に2 元用 色 アンプルに2 元 ずつ充填して指閉し、筋肉内用注 射剤とする。

#### 実施例3. 点眼剂

グリセリン

n・トコフエロ・ル	リン間エステル		0.1 9
フンニトール			5. O s
POE(20)72	ビタンモノオンート		0,05 *
ニデト的ナトリコ	· 4		001"
5%水酸化ナトリ	Pム(p日調整剤)		167 TA
場性ペンザルコニ	ウム		0.007 +
基高荷製水	金属		1 0 0 mj
(	pH7.2に誤談する[	)	

以上の48次を無適が過し、無菌的に10㎡すっ 点職ビンに充事、審判して点職報とする。 実施網よ 化硬水

·	
<b>ルートコフエロールリン酸エステル</b>	
POS(69)硬化ビマシ油	

以下に実施例を挙げて本税明を説明する。 実施例 1. 在射剤

ペー・トコフエロ・ルリ:	/ 酢エステルニナトリウム	6.52
ブドウ糖	•	5, 0 #
POE2がソルビタンモ。	/オレート	0.3 #
能酸(pH網接利)		通一路
注射用蒸留水	金二號	[ t) Om?
,	to war and the late of the	

#### (pH 7.0に調整する)

以上の現被を無處に 過し、無報的に 2 ㎡ 用無色 アンブルに 2 ㎡ ずつ売取して雇用し、脳海内用は 射剤とする。

#### 実施例 2. 准射剂

	•
リン酸エステルニナトリウム	2.02
	5, 0 #
ヒマシih	1. () #
)	通货机
金融(カルクのに製物を入)	1 0 3 mc
	リン酸エステルニナトリウム ヒマシ油 ) 企器 ( p li 2,0 kc 親数する )

# クエン榜 0.19 パラオキシ安息各級メチル 0.1 m エクノール 15.0 m 5 %水栓化カリウム (pH 熱熱剤) 適量 昼間製水 全量 10.0 m

#### (pH a u に温度する)

以上の親後を無菌評過し、100mm用の化粧水用 ピンに充填、密閉し、化粧水として用いる。

#### 実施例ぶ ドリンク剤

〃…トコフエロールリン徴エステル	0.19
L・アスコルピン酸	0.5 #
クエン酸	0.2 #
クウリン	1.1) "
イノシット	0.5 #
ニコテン酸アミド	0.03 a
ハチミツ	5.0 #
POEくくのリモノステアレート	0.1 "
5億水砂化ナトリウム(pit 調製剤)	13 St
域南角製水 全根 (pH 3.0に調整する)	) a to t

0,5 9

以上の混戦を無償沪過し、無償的に100歳の ドリンク用ビンに光度、密性し、ドリング削とす Z .,

#### 実趣図 6. ショップ剤

ri・小コフスロールリン依エス	テルニナトリウム	3.0	9
POE(40)モ/ステア	レート	1, 0	tt
ソルビトールでの(w/v	) àž	7.5	æĒ
前級(pH和級所)		ĕ	ii.
パラオキシ安息香糖メチル		0.28	7
パラオキシ安息香酸ビロヒ	*n	0.1.2	9
减陷裂精水	金甲	100	w.C

#### ( pH 6.5 に割除する )

以上の記載を無菌評過し、無菌的に 5 0 冠のガ ラスピンに充填、密発し、シロツブ剤とする。

化测人 护理士 许 内 卓

#### 手続補正費(現在)

68 HI 57 F 12 F 13 H

#### 特許庁長官股

- 1. 取作の数示
  - **電和57年報路開発155637**号
- 2. 意料のお荷
- ウートコフエロールリン粉エステルの実定を本計画
- 3. 福正をする者
  - 事件との関係 人味用信律
  - (E) 海 一大阪府大阪市東区平野町 3 174 6 声响の 1
  - 名 称 一千万颗要株式会员
    - 代表表 表 田 井 二
- 5. 楼正命令の日付 班和57年17月12日
  - (発達は、昭和 5 7 年1 1 月 5 0 月付)
- 6. 最近により増加する発明の数 0
- 捕 正 の 対 み 「 類古の発明者 ( 松前を借す ) の前用の間。

#### 要1. 以陰熱方例1における外傷

非イオン界面活性剤	HLB	種精機解後の外部
P()Lintt クチルフエニルエーテル	1 1.5	
POEはノニルフェニルエーテル	20.0	-
P()B9iラウリルエーテル	1 4.5	-
POE(40)ペノステアレート	1 7.5	-
PUE(41)ソルピツトテトラオレート	1 2 5	
POE(60) 硬化ヒマシ油	1 4.0	
POE M/ハンピタンモノオレート	1 5.0	
無 章 加		tt:

#### 試驗幾方例 2

#### ルートコフニロールリン位エステルニナトリウム

マンニトール 5 ・ POEMUNEタンモノオレート 合称度 *  症候(可用解解) 原 用  活質症液水 全 景 1000 *			500 300 6 3	(/ V ):
確務(pH網影剤) - 夏 以	マンニトール		5	•
The first transfer of	POEMソルビタンモノオ	レート	369	#
德国的健康 金 景 100 "	確於(pH與影剂)		题 - 战	
	接首的微水	金 尽	100	"

#### 数2 同でにおける試験例方例2の外型

ナートコフェコールリングエステル	POEMANUS CATAL-FETE(WV)3
ニナトリウムボリバ(マ/マ)が	. O ROI 0.03 (co5 H.1 0.2 A.
0.1	m -+
0.3	40 00 30
0,6	for 181 100 10
1.0	1+ 41 01 Ut to 4 -

#### ルートコフェコールリン前エステルニナト リウムれる(マ/v)第における pH 能び IC POEM/ルピタンモノオレートの 態質

	POEmソルビタンモノオレート高度(w/v)等				
pH	0	0.05	0.1	1), 2	0.3
10	_	-	_	-	-
9	-14-		_		-
8	+++	++-	-		-
7	441-	++-		-	- }

### 昭 62. 9. 2 発行

#### 特許法第17条の2の規定による補正の掲載

昭和 57 年特許願第 155617 号(特開 昭 59-44175 号, 昭和 59年 3月 12日 発行 公開特許公報 59-444 号掲載)については特許法第17条の2の規定による補正があったので下記のとおり掲載する。 3 (2)

Int.Cl. +	識別記号	庁内整理番号
C07D511/72		6971-4C

(自発) 手桡補正菌

昭 和 61章

特許庁長官製 1、事件の表示

昭和57年特許額第155637月

2. 我们の名称

α - ドコフエロールリン数エステル・

3 . 福正をする者

. пишелена

主所 大阪府大阪市東区平野町

3丁目6番地の

氏名 千米

4. 代理人 〒541 15 (06) 202-5858

住所 大阪市東区北浜4の46万成ビル

氏名 (6249) 竹内 4

5. 補正命令の日付 (自発)

6、補正の対象 明細菌の「発明の詳細な説明」

တေကာ

7、補正の内容 別紙の通り

方式 (音)

稲正の内を

1. 明相歯部10頁、張3の装中の末行(pH7 の行)の「++」の際の「~」を「+」に訂正し + +

2. 同第15頁、95目の「0.28g」を「0.0 28g」に、105目の「0.12g」を「0.0 12g」にそれぞれ訂正します。 以上